

テンポス 年内に月2万枚輸出

海渡る中古和食器

中古厨房機器を販売するテンポスストアースは、海外の飲食店に中古食器を提供する事業を始めた。国内の飲食店から買い取り、2018年内にも和食器を月2万枚輸出する体制を整える。まずは米国から始め、欧州やアジアへの輸出も検討する。海外で日本食の店が増え、和風食器の需要が高まっているのに対応。国内の飲食店の食器更新も手助けする。

飲食店や旅館などから、食器の買い替えなどに伴って不要になった中古の和食器やお盆を買い取って輸出する。国内販売価格の4倍程度の価格で販売するが「新品に比べれば格安」（森下篤史社長）で、海外で需要があるとみている。

飲食店から買い取った和柄の食器を米国向けに輸出する



日本食人気 追い風に

日本食店が世界で急増
海外の日本食
レストランの店舗数

	2015年	17年
アジア	45,300	69,300
北米	25,100	25,300
欧州	10,550	12,200
中南米	3,100	4,600
オセアニア	1,850	2,400
ロシア	1,850	2,400
中東	600	950
アフリカ	300	350

(注)農林水産省推計。15年は7月時点、17年は10月時点の店舗数



ちようちんなど日本風の
インテリアの海外販売も
検討する

西本Wismetaホールディングスのグループ会社と組み、17年9月に試験的に和風の食器を輸出。同社が持つフランスの拠点で販売したところ現地の和食店

国人には漢字やひらがなが美しいデザインに見える」（同）としてそのまま販売する。

テンポスは飲食店の内装品の販売も手掛けており、今後は日本風のインテリアや調度品も輸出販売していく方針だ。ちよ

ちようちんなど日本風のインテリアの海外販売も検討する

やすし店などから好評だったため、このほど定期的な輸出販売を始めた。現在、月に1万枚弱の食器を輸出しているが、18年内に販売拠点をニューヨークなどにも広げ、2倍の2万枚を輸出販売する。テンポスの18年4月期の食器販売の売上高は約2億2千万円だったが、19年4月期には海外販売の割合を1割程度まで高める。

事業の背景には、海外の日本食飲食店の急増がある。農林水産省によると、海外にある日本食レストランの店舗数は2017年10月時点で約11万8000店。前回調査の15年7月時点の約8万9000店から3割増えている。13年に「和食」が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録されたことも後押ししている。

今後はシンガポールなどのアジアや欧州への展開も検討する。森下社長は「日本食店の増加もあり、海外では和風食器が高額で取引されている。中古品の流通量は少ないので需要は大きいはずだ」と話す。